

【科目名】臨床見学実習			【担当教員】理学療法学専任教員						
【授業区分】専門分野（臨床実習）		【授業コード】 3-19-0705-0-1	連絡：粟生田 博子 (メールアドレス) aoda@nur.ac.jp (オフィスアワー) 月曜～金曜、8：30～18：00						
【開講時期】1年次 後期		【選択必修】必修							
【単位数】1 単位		【コマ数】20 コマ							
【注意事項】(受講者に関わる情報・履修条件)									
<ul style="list-style-type: none"> ・実習の手引きを熟読しておくこと。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) <ul style="list-style-type: none"> ・実習前に身だしなみを整えること。不適切な身だしなみと判断された学生は実習を認めないことがある。 ・臨床見学実習終了後は、グループ毎にディスカッションを行い学習の理解を深める。積極的な発言や質問などが望まれる。 ・実習中に事故・事件その他の問題が起きた場合は、直ぐに実習先のスタッフ及び本学へ連絡すること。 									
【講義概要】									
(目的) 臨床見学実習は、近隣の医療施設または老人保健施設に赴き、リハビリテーションスタッフの職場環境、作業療法士や他の医療関係者との関わりについて学び、自ら進む作業療法士像のイメージを創ることを目的とする。									
(方法) 少人数（3～4名）のグループを構成し、1週間の日程とする。1週間のうち3日間は医療施設または老人保健施設に赴き、前後1日は学内にて専任教員のもとセミナーを実施する。									
【一般教育目標(GIO)】									
<ul style="list-style-type: none"> ・これから目指すセラピスト像のイメージを創造する。 									
【行動目標(SBO)】									
<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士という仕事の魅力・やりがい等を聞く、もしくは触れる。 ・病院でのリハビリテーションスタッフの関わり方に触れる。 ・福祉施設で高齢者への関わり方や介護士や看護師の仕事内容に触れる。 ・小児施設で子どもへの関わり方に触れる。 ・可能であれば、精神障害施設・地域の介護保険・就労支援施設の見学にも参加する。 									
【教科書・リザーブドブック】 実習の手引き、配布資料									
【参考書】 PT・OT 学生のための実習を乗り切るらくらく実践術、長野康博著、医歯薬出版株式会社、2010年、¥1,800									
【評価に関わる情報】									
(評価の基準・方法)									
<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準は本学学則規定の GPA 制度に従う。 ・実習への参加率、グループワーク、発表、レポートなど総合評価とする。 									
【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	実習、出席日数	合計
総合評価割合		0	0	20	20	0	0	60	100点
評	取り込む力・知識	0	0	10	0	0	0	10	20

平成 26～28 年度入学者用

価値指標	思考・推論・創造の力	0	0	10	0	0	0	10	20
	コラボレーションとリーダーシップ	0	0	0	5	0	0	10	15
	発表力	0	0	0	10	0	0	0	10
	学修に取り組む姿勢	0	0	0	5	0	0	30	35
【授業日程と内容】									
回数	講義内容	授業の運営方法			学修課題(予習・復習)			時間(分)	
1	3 専攻合同オリエンテーション (マナー・服装など)	講義			実習手引きなど配布資料を読んでおく。				
2	専攻別学生紹介用紙など必要書類の作成	講義			実習手引きなど配布資料を読んでおく。				
3	3 専攻合同学外実習前日オリエンテーション	講義			実習手引きなど配布資料を読んでおく。				
4～8	臨床実習	実習			実習手引きなど配布資料を読んでおく。				
9～13	臨床実習	実習			実習手引きなど配布資料を読んでおく。				
14～18	臨床実習	実習			実習手引きなど配布資料を読んでおく。				
19	専攻別・学外実習後セミナー (指導教員別ディスカッション)	討議			討議をまとめ、発表準備を行う。				
20	専攻別・学外実習後セミナー (指導教員別ディスカッション)	発表			発表後、質問や意見などを参考にレポートを作成。				

※授業日・教室は随時学生ポータルサイトにて配信します。

※ここに示す学修課題の時間は、必要とする授業外の学修時間(授業時間の3倍)に含むべき時間を示します。